

山梨大学 留学生 センターニュース



留学のすすめ

山梨大学国際交流委員会・委員
工学部 先端材料理工学科 藤間 一美 教授



米国の研究所で働いた経験はあるが、学生として留学したことは残念ながらない。だから留学を薦めるのは無責任で、これから留学しようとする人にどれだけ役に立つことがいえるかも不確かだ。そこには働いてお金をもらうか、お金を払って教えてもらうかの差があるからだ。ただ、違う価値観の中、違う言葉を通して外国で生活するという点では共通点は多いと思う。

さて地方から都会へ、関西から関東の学校へ通ったとしても、それを留学と意識することはない。単に遠距離通学である。決定的な差は、文化、歴史、言語が違う世界に入るかどうかであろう。ところが学問の最終目的は少なくとも科学、工学の分野では世界中どこに行っても同じだといえる。もし違ったら万人共通の知識の存在が怪しくなる。そうすると「留学の目的は最終目的にいたる手段、学習研究環境をこれまでのものと変えたい、あるいはもっと自分に合ったものにしたいということに尽きると言い切ってよいか？」と問い直すと、多少心配が残るけれど私自身はイエスと思っている。実際米国の方が仕事ははかどると思う気持ちに今も嘘はないからである。ところが留学したことをどう生かそうとするかは多様で、たぶん留学の数だけあるような気がする。その理想とする環境に現在の基盤を捨てて飛び込もうとするのか、あるいはそれを自分の周りにも築こうとするのか少なくとも二通りある。見識が広まったというのも立派な効果である。

どの国のどこに生まれて、幼児期をどこで過ごすか、どのような教育を受けるかは無条件に与えられるもので当人が選べるわけではない。自分の過去を振り返ってみれば結果的に最高の条件だったと思えることがあったとしても、それは運が良かったに過ぎない。ちょうど生まれるときに両親を選べ

ないのと似ている。何語を母語とするか、文化も宗教も自分では選べない。これまでと違う世界に飛び出すことが自分の意志で可能になるのは高校が終わって大学に入学するあたりというのが一般的だろう。そのとき、実は母国の文化あるいは言語を覚え、それから派生するものの考え方がすでにある程度固まってきている時期なのである。

もし留学する機会が現れたら、動機が何であってもチャンス逃すべきではないと思う。その結果何が起きるかは経験してみなければわからない。同じ経験をしてその結果は人によって違う。こればかりは悩んでも、考え込んでも、やってみなければわからないことだから。

さて留学は、あるいは外国で仕事をするのは体力を消耗する。おどかさずつもりはないが実感としてそうなのである。いろいろと勝手が違うから気苦労が多い。これは国内の引っ越しでも変わらない。一番くたびれるのは日本語で考えて、それを外国語で話す、あるいはその逆の翻訳という作業が必要になることで、一日議論を続けていると夕方にはぐったり、週末に遊びに出かけたいという元気のかけらも残っていない。ところが、しばらくすると気づかないうちに、英語で考えてそれをそのまま話すように切り替わる。食べるものも菜食から肉食中心になり、日本にいるときよりはるかに食べる。そうでないと身がもたないから当然のことなのであろう。こうしてひとたび英語モードに切り替わり、やっと仕事を進める気分になれる。仕事でなくて留学でもこれは全く同じだろう。ところが逆に日本語に戻るにも時間がかかる。私は1ヶ月ぐらい米国で仕事をして日本に戻り、また1、2ヶ月で米国に帰るという生活をしていたのだが、日本でとっさに日本語が出てこないと焦った経験はずいぶんあった。私にとって二つの言語、文化が共存しているというのは極めて不安定で許されない状況なのだ。

一方、米国で暮らしている日本人研究者たちや、留学の結果、米国籍をとってしまった伯父と話していると、ここまでできて初めて国際的というのかなと思ったことが何度もある。彼らは日本語と英語、文化、様式の違いをいちいち気合いを入れて切り替えることなく、同時にそれらが全く矛盾せずに共存しているように思えるのだ。どういう頭の構造になっているのかと一度覗いて見たい気分だが、その域までいったことがない僕には本当のことはわからない。さらに、全く米国人と区別がつかない振る舞いをするのだが、当人たちは迷わず「僕は日本人だ」と言っている。この理由は簡単で、もし米国人と全く同じなら彼らがそこで仕事をする優位性がなくなってしまう。米国で活躍する日本人だからこそ魅力があるのだ。このことをきちんと認識しているのである。

生まれた環境、国籍は選べないと言った。日本は合わないから捨てるというのは大学生ぐらいの年代になると不可能とは言わないまでも現実的ではない。その歳までに文化、生活様式が知らない間に身につけてしまっている。留学によってその土台に何をどう載せられるかが将来を決める。全く同じことが日本に留学しようとする、あるいはすでに留学している人にも言えると思う。すべてが日本人と同じなら、何も留学生を選ばなくても日本人はいくらでもいるのだから。

若い時に機会があって、事情が許すなら留学してみることを迷わず薦める。異なる文化、ものの考え方、生活様式、言語の同時使い分けは楽しい。日本の文化をひっさげて外国で暮らすのも良い。その逆もまたすばらしい。

留学生センターの取り組み

日本語・日本事情教育

■学部留学生対象 日本語・日本事情教育

学部留学生を対象とする日本語授業は、「初中級」、「中級」、「中上級」、「上級」の4レベル6科目を前期・後期ともに開講し、「演習（プレゼンテーション）」を前期に開講しています。これら7科目は、大学で必要とされる日本語能力の向上を目指しています。また、日本人学生とともに日本の文化や社会についての理解を深める「日本事情」、異文化の理解と尊重を目標にした「異文化間コミュニケーション」の授業も開講しています。いずれの授業も、eラーニングを取り入れつつ、学習効果をより一層高めるよう努めています。

■日本語補講

本学に在籍し日本語を学びたい大学院留学生及び研究生などを対象に、日本語補講を開講しています。入門レベルから論文作成レベルまで幅広いクラスがあり、甲府キャンパス・医学部キャンパスともに提供しています。また、山梨大学に入学した日本語入門レベルの受講生を対象とした、サバイバル・ジャパニーズ・テキストの英語版及び簡体字版を作成し、現在補講で使用しています。

留学生指導相談・文化交流

本学の留学生のための相談室が開室されています。「授業に出るのが辛い」「友だちができない」「国に帰りたい」「日本のことがよく分からない」「いつどのように就職活動を始めたらいいか教えてほしい」などといった、勉学や生活、人間関係、就職等で困ったことや心配事、分からないことがあった時には、気軽に留学生相談室を訪ねてほしいと思います。また、留学生チューターや留学生に関わる教職員からの相談にも応じています。本学の学生間で国際交流を経験したい学生には、国際交流のサークルやイベント等も紹介しています。

日本語研修コース

2011年度後期（2011年10月7日～2012年2月14日）

2012年度前期（2012年4月6日～2012年7月31日）

日本語研修コースⅠは入門から初級終了レベル、そして研修コースⅡは初級後半から中級レベルの日本語集中コースですが、コースⅠは1年に2回、前期と後期に開講され、コースⅡは後期のみ開講されています。2011年度後期には交換留学生を含む7名が研修コースⅠに、そして9名が研修コースⅡに参加しました。2012年度前期には4名が研修コースⅠに参加、授業はもちろんのこと、交流事業などで受講生同士の距離が縮まり、和やかな雰囲気が進められました。いずれのコースも総合的な日本語能力を身に付けることを目的としており、最後には成果発表として自国または日本の文化事情などについて調査をまとめたプレゼンテーションが指導の先生方とチューターの前で披露されました。



日本語研修コース2011年度後期修了式



日本語研修コース2012年度前期修了式

2012年度（平成24年度）後期 時間割

	月	火	水	木	金
I 9:00~10:30				初中級ⅡB(江崎) 研修Ⅱ(江崎)	研修Ⅱ(長阪)
II 10:40~12:10	初中級ⅡA(奥村) 研修Ⅱ(奥村) 中上級Ⅱ(仲本) 研修Ⅰ(江崎)	研修Ⅰ(伊藤) 研修Ⅱ(二宮)	日本事情Ⅱ(伊藤) 中級ⅡA(仲本) 研修Ⅱ(岡部)	研修Ⅰ(奥村) OH(江崎)	研修Ⅰ(井上) 研修Ⅱ(長阪) OH(伊藤)
III 13:10~14:40	研修Ⅰ(江崎) 研修Ⅱ(奥村) OH(仲本)	研修Ⅰ(伊藤) 研修Ⅱ(二宮)	研修Ⅱ(岡部)	研修Ⅰ(奥村)	中級ⅡB(伊藤) 研修Ⅰ(井上)
IV 14:50~16:20	研修Ⅰ(江崎) OH(奥村)	研修Ⅰ(江崎) 研修Ⅱ(二宮)	OH(伊藤)	研修Ⅰ(奥村)	研修Ⅰ(井上) OH(伊藤)
V 16:30~18:00	甲府・補講(長阪)	異文化(奥村) 上級Ⅱ(江崎) OH(高田谷)			甲府・補講(井上)
VI 18:10~19:40	甲府・補講(長阪)		医学部・補講 (長阪・岡部) 18:00~19:30		
VI 以降	医学部・補講 (高田谷) 19:00~20:30		医学部・補講 (二宮・岡部) 19:30~21:00		

OH：オフィスアワー

留学生
センター
教員奥村 圭子
kokumura@
yamanashi.ac.jp
055-220-8152高田谷 久美子
kumikoto@
yamanashi.ac.jp
055-273-8289仲本 康一郎
knakamoto@
yamanashi.ac.jp
055-220-8272伊藤 孝恵
takaei@
yamanashi.ac.jp
055-220-8753江崎 哲也
esakit@
yamanashi.ac.jp
055-220-8752

学生の声

海外留学体験記

「新しい自分に出会う旅 留学を考えている皆さんへ」

教育人間科学部 国際文化コース 4年 齋藤 明日香

私は1年間ドイツのドレスデン工科大学に交換留学しました。幼い頃からヨーロッパの歴史に興味があり、いつかは行ってみたいと漠然とした考えを持っていましたが、正直なところ、自分が留学をするとは考えていませんでした。今まで一度も海外に行ったことがなかったこと、英語もドイツ語も中途半端で自信がなかったこと、未知の世界に対する不安などがあり、なかなか勇気が出ませんでした。それでも友人からのアドバイス、背中を押してくれた周囲の人々、今までにやったことがない、今しかできないことをやってみようという思いから留学を決意しました。

2011年2月にドイツに渡り、3月は大学付属の語学学校に通いながら諸々の手続きを済ませ、4月から大学生活が始まりました。週に2回の留学生向けのドイツ語のクラス以外は現地の学生といっしょに講義を受けました。講義はすべてドイツ語なので最初は全く理解できませんでした。そのため、授業で聞き取れた単語をノートに写しては自宅で調べ直すという作業をひたすら繰り返しました。地道な作業ですが、ドイツ語に慣れ語彙も増えるいい方法でした。ドイツ語クラスには積極的に参加しました。ドイツの文化や歴史に触れたり、自国のことをドイツ語で説明するなど実践的な内容が多く、ドイツ以外にもさまざまな国の文化や社会について学ぶことができました。またクラスの留学生同士で会話をすることでドイツ語を話すことが楽しくなりました。お互いドイツ語が未熟なこともあり、間違いを気にせずに話せる点がよかったのだと思います。もちろんなかなか思うように伝わらないものかしさもありましたが、その分伝わったときの嬉しさはひとしおでした。大学以外の時間は市内の散策や旅行をしました。ドレスデンは美術館や博物館が多く、城や教会など見どころもたくさんある素敵な街です。旧市街から新市街に渡る橋の上から見る景色は、言葉では言い表せないほど美しいもので一生忘れられません。

私が留学をして一番良かったと思うのはやはり色々な人と出会えたことです。ドレスデンに着いた日には3人しかいなかった知り合いが、1年間でその何十倍にもなりました。特にあるドイツ人の一家は本当の家族のように接してくれ、ホストファミリーのような存在になりました。ともに食事をしたり、散歩をしたり、勉強をしたりして楽しい時間を過ごすことができました。また、現地で働く日本人の方々にも生活面でのお世話になりました。彼らのおかげで日本が恋しくなることもありませんでした。

1年間を終えてみると、本当にあっという間でした。ドイツ語は最後まで思うように上達せず、ペラペラに話せるようになった……とまではいきませんでした。それ以上に大切な物をたくさん得ることができたと思っています。辛いこともたくさんありましたが、家族をはじめ、周囲の人たちが支えてくれたおかげで乗り越えることができました。本当に感謝してもしきれません。

留学には憧れるけれど、やっぱり行くのは怖い、不安がある。そう思う人は実はたくさんいるのではないのでしょうか。私も最初はそう思っていました。しかし、その不安を抑えて留学を決意し、本当によかったと心から思います。英語やドイツ語があまり得意ではなくても、自分から積極的に動く気持ち、何とかしようという気持ちを強く持っていれば何とかかなるものです。日本にいては決してできない貴重な経験ができますし（ビザの取得について担当者と喧嘩する機会なんて、まずありませんよね）、一生付きあえる友人と出会うこともあります。幸いにも、山梨大学には交換留学のチャンスがたくさんあります。ぜひ勇気を出してそのチャンスをつかんでください。きっと留学を終えたあと、一回りも二回りも成長した自分と出会えるはずです。



ドレスデンの友人の家族とともに

日本留学体験記

一年間の思い出

エリック・ベッチャー ドレスデン工科大学（ドイツ連邦共和国）より
1 年間交換留学

私はドイツのドレスデン工科大学から交換留学生として山梨大学にやってきました。2011年の9月から山梨大学で日本語を勉強しました。日本に来たばかりのときは、英語で日本人に話しかけても通じず、あまり会話ができてなくて寂しかったです。でも、日本語を勉強するにつれて、だんだん日本語もわかるようになってきました。留学生センターの先生方や国際交流会館に住んでいる友だちのおかげで、日本語の勉強はとても楽しかったです。



山梨大学では、さまざまな新しい体験を通して、日本語や日本文化について学ぶことができました。特に、山梨大学の国際交流サークル NICE が企画してくれたカラオケ大会や飲み会などに参加し、日本人や他の国の学生と交流を持つことができました。ただ、クリスマスと年末は寂しかったので、思いきって山梨を飛び出し、横浜に住んでいる友だちと会うことにしました。そして新しい年には元気になって大学に戻り、再び日本語の勉強を始めました。

新しい学期が始まるころになると、日本人の友だちとも日本語で話せるようになり、日本での生活にもだんだんと自信が持てるようになりました。春になり暖かくなってきたので、スポーツやパーティーなどに参加したり、4月に来たオーストラリアやドイツの留学生たちと花見や七夕をしたりもしました。でも日本での生活が楽しくなればなるほど、時間のたつのははやく感じられるようになりました。日本の生活にも慣れてきたので、できればあと一年、日本で勉強をしたかったです。

最後に、指導教員の高橋英児先生にお礼を述べたいと思います。私の専門は教育であり、私は将来、学校を作りたいという夢を持っています。高橋先生のおかげで、私は何度も日本の学校や授業を見学させていただくことができました。さまざまな国の授業や学校を参考にして、いつか理想の学校を作りたいと思っています。山梨大学での一年間は本当に有意義なものでした。この大学に留学できたことは私にとって何にも代えられない貴重な経験となりました。

現在、本学と大学・部局間協定を結んでいる大学は約30校あります。そのなかで、交換留学の制度があるのは、齋藤明日香さんが留学したドイツのドレスデン工科大学のほかに英国オックスフォード・ブルックス大学（OBU）、米国イースタン・ケンタッキー大学（EKU）、フランスのリヨン第三大学[※]、オーストラリアのシドニー工科大学、そして昨年度から交流が始まったタイ王国コンケン大学です。

また、2012年度・2013年度は、語学留学として夏季英語研修（EKUとカナダのプリティッシュ・コロンビア大学）、春季英国研修（英国レスター大学）もあります。

留学を考えている皆さんは、以下へご連絡下さい。

国際交流室（055-220-8373）、又は留学生センター奥村（055-220-8152）♪

※ リヨン第三大学への交換留学は教育人間科学部の学生に限りです。

日本・山梨の文化体験と行事の数々

■昇仙峡での紅葉狩り（2011年11月20日）

秩父多摩甲斐国立公園の一部である昇仙峡は、一年の中で秋が一番美しいと言われています。医学部キャンパスからの参加者5名を含む19名が、紅葉狩りと散策を楽しみました。高さ180メートルのそそり立つ覚円峰（がくえんぼう）をはじめ、奇岩奇石と清流が織りなす豪快な景観は、国の特別名勝にも指定されているようで、渓谷の花崗岩の白い岩肌を赤や黄に紅葉した木々が彩り、絵画的な写真がたくさん撮れ、皆大満足。渓流や滝からの新鮮な空気をたっぷり吸い込み、爽快な気分を味わえた一日でした。



■やまなし留学生スピーチコンテスト（2011年11月27日）

由緒ある山梨大学赤レンガ館で今年も留学生スピーチコンテストが行われました。本年度は本学からは、8名の留学生が出場しましたが、残念ながら受賞には至りませんでした。今回のテーマは「創造力：この時代に生きる私たちに求められる創造力とは何か」という難しいもので、留学生たちは皆、どのような内容のスピーチにすべきか、頭を悩ませていたようでした。今回受賞を逸した出場者のなかには、「来年こそはもっといいスピーチで入賞を果たしたい」と意欲を燃やしている学生もいました。



■餅つき地域交流会（2011年11月28日）

甲府国際交流会館に居住する留学生と、甲府市岩窪地区の方々との交流を目的として行われている行事で、今年度も交流会館敷地内で餅つき大会が開催されました。留学生たちは地域の方々から手ほどきを受けつつ、初めての餅つきを体験し、色々な味付けのつくたての餅を食しました。また中国、タイ、ネパール、マレーシア、イギリス、ドイツ等、各国の留学生の手料理も並び、食文化を通じた楽しい交流の機会となりました。今年度は地域の皆さんによる獅子舞も披露され、留学生からは拍手喝さいで迎えられました。最後は、この地に伝わる岩窪音頭を皆で踊り、交流を深めました。



■学長主催 留学生懇談会（2011年12月8日）

毎年恒例となっている留学生懇談会が、前田秀一郎学長主催のもと、甲府キャンパス大学会館で開催され、留学生や教員、県内国際交流関係の来賓の方々など、約200名の参加がありました。参加者たちは、心のこもったスピーチ、歌や楽器、踊りの披露などを通して交流を深めました。特に、本年度はタイ王国コンケン大学の交換留学がスタートし、民族衣装に身を包んだ3名の留学生の優雅な踊りは会場を沸かせました。また本年度は四百年の伝統を持つ甲州民俗工芸の老舗「印傳屋」の社長から、世界の懸け橋となってほしいとの言葉とともに留学生たちに文房具が贈られました。

■和太鼓体験ワークショップ (2012年2月2日)

本学大学会館の多目的ホールにて、地域の太鼓グループ「なりゆき太鼓」の皆さんによる「和太鼓ワークショップ」が行われました。東日本大震災の海外からの支援に感謝の気持ちを伝えたいという「なりゆき太鼓」の皆さんの強い思いから、この留学生向けのワークショップの開催となりました。古くから神事に使用された和太鼓は、現在では伝統的な打楽器として世界から注目を集めていますが、なかなか和太鼓に触れる機会などなく、参加者全員が初心者でした。しかし、全身を使ってリズムカルに振り下ろすバチ、響く大音響など普段はあまり味わえない和太鼓の持つダイナミズムを体感でき、勉学生活でのストレスまで解消できたようでした。「なりゆき太鼓」のメンバーの熱心なご指導に心より感謝しています。



■書道体験 (2012年2月2日)

研修コースの授業の一環として教育人間科学部の言語教育コースの宮澤正明先生とそのゼミの皆さんのご協力を得て、書道体験を実施しました。まず、日本における書道の歴史、書くときの姿勢などを教えていただき、簡単な漢字の楷書を学んだ後、思い思いの好きな言葉を墨と筆で表現、時の経つのも忘れ、熱心に取り組みました。これを契機に2012年度に書道科目の授業を受講したいと更なる関心が湧いた学生も多く、履修した留学生の作品のいくつかは年度末に催される宮澤ゼミの書作展で展示されました。



■日本酒酒蔵見学 (2012年2月18日)

2012年で5回目を迎える酒蔵見学。今回は7人の学生が参加しました。山梨県北杜市にある「山梨銘醸株式会社」まで電車とバスを乗り継いで約1時間。毎年この時期は「酒蔵開放」と題して新酒を味わうイベントが開催されているので、まずは日本酒の試飲から。数多くの日本酒からお気に入りの一本を見つけるためにあれこれ試す学生、とにかくたくさん飲む学生、日本酒ではなく桃果汁と日本酒のリキュールばかり飲む学生、と思いきいに「日本酒」を堪能しました。その後は日本酒の製造過程と酒蔵の歴史ある建築を見学し、日本文化の一端に触れた一日となりました。

■留学生のための統計講座 (2012年2月20日～22日)

毎年2回開催の統計講座ですが、2011年3月の東日本大震災の影響を受け、2011年度は1回のみで開催となりました。講師は、総合分析実験センターの中本和典教授で、内容は①統計基礎、②t検定とカイニ乗検定（その1）、③相関係数、④カイニ乗検定（その2）、⑤R 基本編、⑥R 回帰分析でした。参加者は、甲府キャンパスからは6名、医学部キャンパスからは、全日参加が無理な学生もいたため、各日8名～10名の参加となりました。ただこういったまとまった統計学習の機会は少ないため、皆、意欲的に学習に取り組み、終了後は次回講座にもぜひ参加したい旨申し出る学生もいました。

■外国人留学生等研究発表会（2012年3月8日）

医学部臨床講義棟小講義室において、留学生の研究発表会が開催されました。大学院修士及び博士課程の学生11名（工学領域3名、教育領域1名、医学領域7名）と、医学領域の研究生1名が発表しました。出身国はマレーシア1名と中国11名で、日本語と英語で流暢に発表していました。個々の研究は非常に専門的であるため素人にはむずかしいところもありましたが、質疑応答も活発に行われ、研究の成果と自信のほどが伺えました。学部を超えての研究発表会は、発表者本人にとって貴重な発表の機会となるだけではなく、お互いどのようなことをテーマに研究しているのか改めて知る機会ともなっていました。



■留学生のための就職ガイダンス（2012年6月5日）

キャリアセンターや進路支援室が開催する全学的なガイダンスやセミナーとは別に、日本での就職を希望、あるいは検討している留学生に向けた就職ガイダンスを、キャリアセンターの協力を得て毎年開いています。このガイダンスでは、日本の就職活動のスケジュールと主な準備について本学のキャリアアドバイザーから説明をしてもらいました。母国の就職活動とは異なる日本の就職活動に、出席した留学生からは「こんなに早くから準備しなければいけないのですか」「自己分析は必ずしなければいけませんか」といった戸惑いに似た質問が出ましたが、日本の就職活動の流れに乗り遅れないためには、まずスケジュールを把握することがその第一歩です。そしてこのガイダンスを機に、留学生にもキャリアセンターを積極的に活用してもらいたいと思っています。

■ホーム・ステイ／ホーム・ビジット（2012年6月16日～17日）

毎年1泊2日のホーム・ステイと日帰りのホーム・ビジットを行なっていますが、今年は8名の留学生が6組の地域のご家庭を訪問し、交流を楽しみました。普段接することの少ない地域の方とお話ししたり、日本の家庭の雰囲気や垣間見たりできることは、留学生にとってとても貴重な経験となっています。日本人にとっては何気ない生活上の習慣や家族とのやりとりも留学生の目には新鮮に映り、母国との違いに日本文化を感じたようです。また、留学生の素朴な疑問・質問が地域の方にとっても新鮮だったようです。ホストファミリーの方々からは「留学生の国の文化を知ることができてよかった」という声が多く寄せられ、ホーム・ステイ、ホーム・ビジットが、留学生の日本文化理解に留まらず、留学生の国の文化を日本の地域に発信し相互の理解を促す機会ともなっています。

■ストレス・リリース・ワークショップ（2012年7月5日）

新学期も始まり、日本にきた留学生も何かとストレスがたまる時期である7月に、ストレスについて学び、ストレスについての対処法を紹介するワークショップが行われました。保健管理センターの伊藤美佳講師からストレスがなぜ起こるか、どうすればストレスを軽くすることができるのかについて、とてもわかりやすい説明をいただいた後、当センターの高田谷久美子教授がリードしながら、参加者全員でボールを使ったり、音楽に合わせてリズムをとったりしながら、実際に全身を動かしていきました。気持ちのいい汗をかき、また参加者同士のノンバーバルなコミュニケーションを通して心も和み、普段できない交流ができました。

■たべもの異文化交流会 (2012年8月23日)

留学生と地域の交流をねらった毎年恒例の「たべもの異文化交流会」が、今年も医学部キャンパス国際交流会館で開催されました。天候にも恵まれ、中央市長をはじめ地域の人々、留学生、大学の教職員約430人と過去最高の参加となりました。留学生たちの母国の自慢料理、日本の味覚を楽しむだけでなく、餅つき、盆踊りなど楽しく交流が繰り広げられました。子どもたちにはスイカ割りが人気だったようです。



■実地見学旅行 (2012年8月30日～31日)

留学生約30名で、1泊2日の京都見学旅行に行ってきました。1日目は世界遺産に登録された清水寺を参拝し、二条城の鶯張りを体験しました。残暑の中の旅行となりましたが、現地ガイドに積極的に質問をし、交流を深めている姿も見られました。ホテルでは今年も舞妓さんに出会えました。2日目の朝は、無線七宝という技法を用いた美しい焼物作りに挑戦し、それぞれ思い出に残るアクセサリを製作しました。最後の観光は国宝鹿苑寺金閣。留学生たちは豪華な佇まいに驚きながら、京都の歴史と文化を堪能しました。



山梨大学留学生センター

〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37

TEL 055-220-8047/8373

MAIL yu-study-abroad@yamanashi.ac.jp